



研究テーマ

1. 野生動物の狩猟と動物に関する祭りの意義研究
2. 狩猟統計・法令による野生動物との関係研究
3. 地域資源としての民俗伝承のアーカイブ化と社会的価値の議論

研究概要

I. 野生動物を狩り、食べることの民俗学的研究をおこなっています。特に動物と人の関係における祭りを通して、野生動物と人の関係、および経済と宗教・倫理道德との関係を研究しています。

II. 設立準備を進めている地域資源情報活用センターでは、これからの地域社会をつくる社会的価値としての民俗伝承をアーカイブ化(デジタル化による情報統合)し、伝承すべき価値を議論していきます。



鈴木 良幸

すずき よしゆき
地域資源創成学
研究科
地域資源情報活用
センター
民俗学、宗教人類学
講師

キーワード

狩猟(銃猟、罟猟)、イノシシ飼育・競り市、狩猟儀礼(狩猟活動における儀礼)、猟神、山の神、動物儀礼(動物に関する地域でおこなう祭り)、模造獣儀礼、狩猟倫理

狩猟統計(狩猟人口、鳥獣別捕獲数と県別分布)、狩猟法令の変遷

民俗伝承・資料のアーカイブ化(デジタル化)
民俗伝承の社会的価値の再評価

特許情報・
共同研究・
応用分野など

I. 記録作成事業

1. 愛知県北設楽郡
記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財「設楽のシカウチ行事」調査記録事業のための調査・執筆

2. 島根県江津市
記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財「山中のお改めとシシ狩り行事」調査記録事業のための調査・執筆(進行中)など

1. 野生動物の狩猟と動物に関する祭りの意義研究

日本列島には、動物を犠牲とする「地域でおこなう祭り」が伝承されています。地域の祭りは、米など農作物の収穫感謝だというイメージがありますが、動物を狩って食べることに地域で祭りをおこなう理由が秘められているのでしょうか。

宮崎県内は中山間地が多く、野生動物との間に密接な「関係」を築いてきました。動物を捕獲して肉として食べることは経済の一環ですが、その一方で同時に宗教的なシステムが形成されてきました。県内には、大型動物を贄としてあげる神楽が伝承されています。動物を捕獲して食べることに、山の神儀礼、贄をおこなう神楽にはどのような関係があるのでしょうか。

従来の研究では、殺す場面に注目が集まってきました。それに対して狩猟活動のプロセスに光を当てることで、祭りや狩猟倫理の形成に関する仕組みが少しずつ分かってきました。贄は、家庭でいただき物を仏壇などにあげてから皆で食べる行為と大変よく似ています。現在、こうした民俗伝承が形成してきた「関係」そのものに学ぶことが必要とされています。いわゆる「智慧」を生活システムに内包することにつながるからです。

2. 狩猟統計・法令による野生動物との関係研究

狩猟活動には、どのような傾向と画期があったのでしょうか。大正期以降の狩猟統計および明治以降の法令、狩猟規制、猟期、捕獲可能指定鳥獣の変遷を整理し、時代状況を加味しながら分析しました。狩猟の傾向として「東の羽物、西の大物」という言葉があります。宮崎県は、イノシシ、シカの捕獲数で全国1、2位を争う大物猟の最も盛んな県の一つです。その一方で、過去には盛んであった鳥類および小型獣の捕獲数が激減しており、大物以外の野生動物との関係の喪失という転換点を迎えていることが明らかになってきました。

3. 地域資源としての民俗伝承のアーカイブ化と社会的価値の議論

民俗伝承は、これからの時代の地域社会をつくる基盤です。伝承は工業化・都市化以前において、地域の社会全体を形づくってきました。行き詰まる現代の生活システムの見直しを図るためには、その一つ一つを取り上げて議論し、社会的価値を再評価しながら生活を再構築していくことが急務です。量的拡大ではなく、質をともなった地域社会の発展のためには、経済的価値を包摂する社会的価値が重要なのです。宮崎は民俗伝承の宝庫です。時代の最先端のライフスタイルを提案できる可能性を持っています。

ホームページ

なし

技術相談に応じられる関連分野

・猟師さんや地域と連携した野生動物との関係問題の究明

メッセージ

・地元にある民俗伝承の掘り起こしと記録をおこない、議論を通じて伝承を現代生活に体現していきましょう。(例えば、郷土料理、年中行事の詳細などなど)